



**2019年3月期 第2四半期
決算補足説明資料**

2018年 11月2日 (金)

**ウェーブブロックホールディングス株式会社
証券コード：7940
(東証一部)**

■ 売上高 14,364百万円（第2四半期業績予想比：△35百万円 99.8%）

- 第2四半期業績予想に対しての進捗は順調
- 編織事業が販売低調も、インテリア事業、産業資材・包材事業、アドバンステクノロジー事業がカバーし、連結全体として前年同期比並みの期初計画をほぼ達成

■ 営業利益 861百万円（第2四半期業績予想比：△38百万円 95.8%）

- 第2四半期業績予想に対しての進捗は想定範囲内
- 原油価格高騰を背景とする原材料価格等のコストアップ分の価格転嫁に時間が掛かったことや、新規事業取り組みのための先行費用などにより前年同期比△23.0%も、ほぼ期初計画通り

■ 今後の見通し

- 期初計画通り、過去最高の売上・営業利益を上げた前期並みの年間業績予想は据え置き（売上28,500百万円、営業利益1,840百万円）
- 秋以降、既に合意された壁紙の値上げを含め、産業資材・包材事業におけるコストアップ分の売価転嫁を更に進めるとともに、アドバンステクノロジー事業の伸長、編織事業における3月の需要期の初回取り込みを進め、期初事業予想を達成する見込み

(単位：百万円)

	2018年3月期 第2四半期累計 (実績)	2019年3月期 第2四半期累計 (実績)	前年比 増減率	2019年3月期 第2四半期累計 (予想)		2019年3月期 通期 (予想)		2018年3月期 通期 (実績)		前期実績と 今年度業績 予想値との 比較
				進捗率	進捗率	進捗率	進捗率			
売上高	14,381	14,364	△0.1%	14,400	99.8%	28,500	50.4%	27,702	102.9%	
営業利益	1,118	861	△23.0%	900	95.8%	1,840	46.8%	1,834	100.3%	
経常利益	1,297	1,082	△16.6%	1,070	101.1%	2,160	50.1%	2,144	100.7%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	954	795	△16.6%	790	100.8%	1,600	49.7%	1,594	100.3%	
1株あたり 当期純利益※	97.36	79.90		80.31	—	163.51	—	161.52	—	

※：発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2018年3月期第2四半期は9,805,238株、2019年3月期第2四半期は9,962,461株です。

セグメント概況

(単位：百万円)

	2018年3月期 第2四半期累計 (実績)	2019年3月期 第2四半期 (実績)	前年比 増減率	2019年3月期 通期 (予想)	進捗率
売上高	14,381	14,364	△0.1%	28,500	50.4%
インテリア	4,341	4,398	+1.3%	9,500	46.3%
編織	4,822	4,617	△4.2%	8,300	55.6%
産業資材・包材	4,630	4,729	+2.1%	9,300	50.9%
アドバンステクノロジー	1,643	1,701	+3.6%	3,600	47.3%
その他	△ 1,055	△ 1,083		△ 2,200	
営業利益	1,118	861	△23.0%	1,840	46.8%
インテリア	408	305	△25.3%	760	40.2%
編織	553	438	△20.8%	710	61.8%
産業資材・包材	196	163	△16.9%	340	48.0%
アドバンステクノロジー	130	156	+19.9%	410	38.2%
その他	△ 170	△ 201		△ 380	

連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産	2018年3月 期末(実績)	2019年3月期 第2四半期 (実績)	前年度末比 増減	概要
流動資産	16,492	16,401	△ 90	
現預金	2,489	2,400	△ 88	
営業債権	7,795	7,839	+44	
棚卸資産	5,938	5,852	△ 86	
その他	269	309	+40	
固定資産	13,283	13,335	+52	
固定資産	11,827	11,873	+45	基幹システム構築に伴う増加
その他	1,455	1,462	+6	
資産合計	29,775	29,737	△ 38	

負債・純資産	2018年3月 期末(実績)	2019年3月期 第2四半期 (実績)	前年度末比 増減	概要
負債	19,106	18,617	△ 488	
営業負債	4,390	4,428	+37	
有利子負債・社債	10,115	9,795	△ 319	借入金・社債の返済
負ののれん	406	212	△ 194	負ののれんの償却
退職給付引当金	2,103	2,097	△ 6	
その他	2,089	2,083	△ 5	
純資産	10,669	11,119	+449	
株主資本	10,403	10,888	+484	自己株式の取得等△184 配当金の支払△159 当期純利益の増加+795
その他の包括利益他	265	230	△ 35	ストックオプション行使による増加+32

キャッシュ・フローの状況

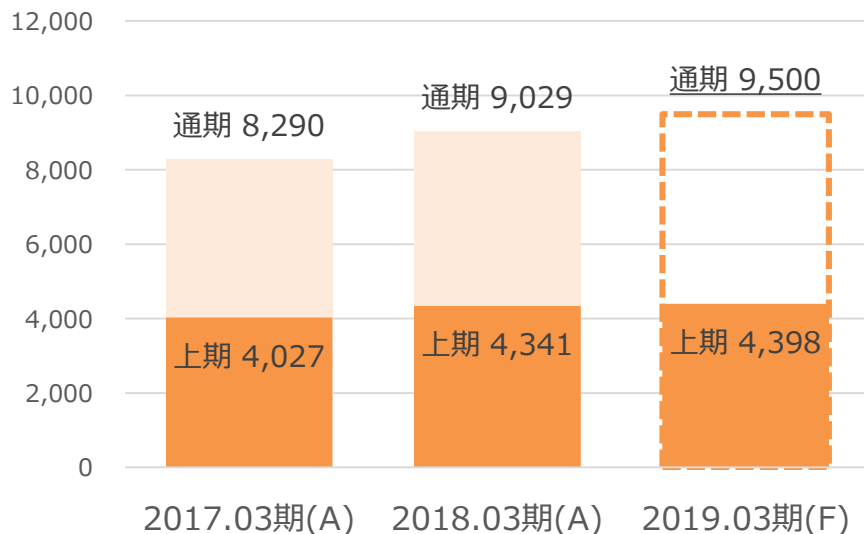
(単位：百万円)

	2018年3月期 第2四半期 (実績)	2019年3月期 第2四半期 (実績)	増減	概要
税金等調整前当期純利益	1,298	1,081	△ 216	
減価償却費	483	466	△ 16	
負ののれん償却額	△ 194	△ 194	-	
退職給付引当金	12	△ 16	△ 29	
運転資本増減	△ 114	19	+134	
法人税等支払額	△ 238	△ 430	△ 191	法人税額増加
その他	29	15	△ 13	
営業キャッシュ・フロー	1,275	941	△ 333	
固定資産の収支	△ 347	△ 357	△ 10	
その他	△ 1	△ 2	△ 1	
投資キャッシュ・フロー	△ 348	△ 359	△ 11	
フリーキャッシュ・フロー	926	582	△ 344	
借入金・社債の収支	△ 781	△ 319	+461	借入金・社債の返済進む
自己株式の収支	-	△ 184	△ 184	自己株式の取得等
ストックオプション行使による収入	121	32	△ 88	
配当金の支払額	-	△ 159	△ 159	
その他	△ 28	△ 18	+9	
財務キャッシュ・フロー	△ 688	△ 649	+38	

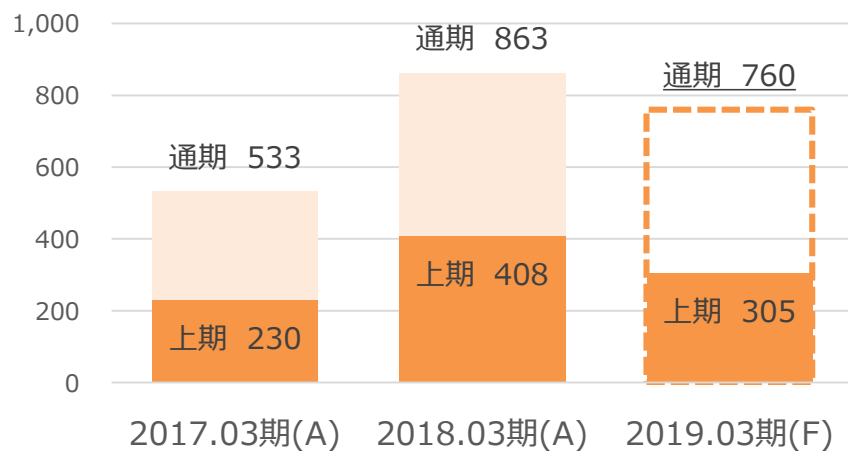
セグメント別 概況

(単位：百万円)

売上高



営業利益



トピックス

- (株)サンゲツ向け量産品壁紙の売上が伸長。一方、中級品壁紙において、第1四半期で(株)サンゲツの一部見本帳の配布遅れの影響等により、上期売上高は前年比+1.3%にとどまる
- 製造効率の向上による原価低減や販管費削減の効果はあったものの、原材料価格および物流費の上昇が利益を圧迫
- 秋以降、既に合意済みの値上げ効果が徐々に浸透
- 下期は、原材料価格高騰及び中級品壁紙の売上低迷による上期の利益減少分を売上増及び更なるコスト削減でカバーし、通期での挽回を目指す

サンゲツ
量産品見本帳



2017-2019
SP

サンゲツ
中級品見本帳

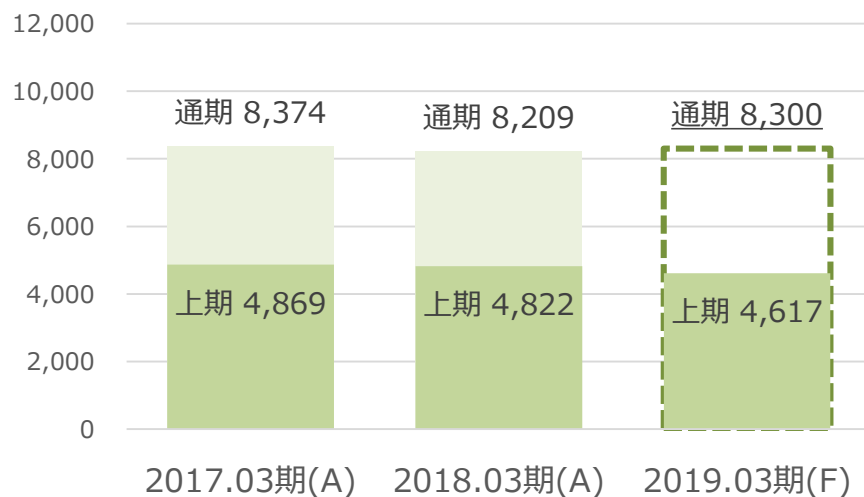


2017-2019
ファイン1000

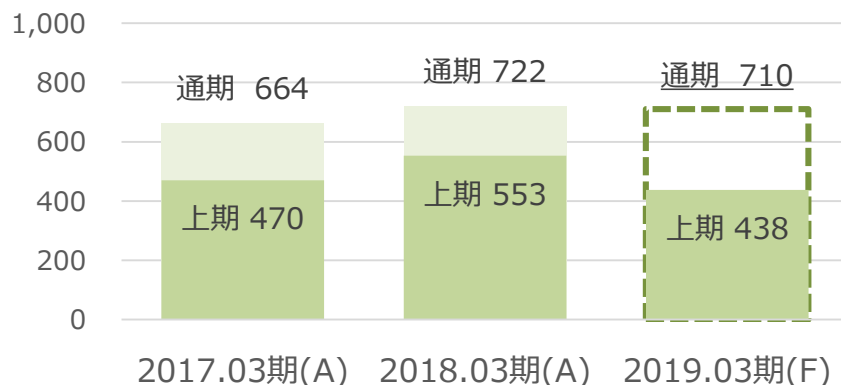
2018-2020
リザーブ 1000

(単位：百万円)

売上高



営業利益



トピックス

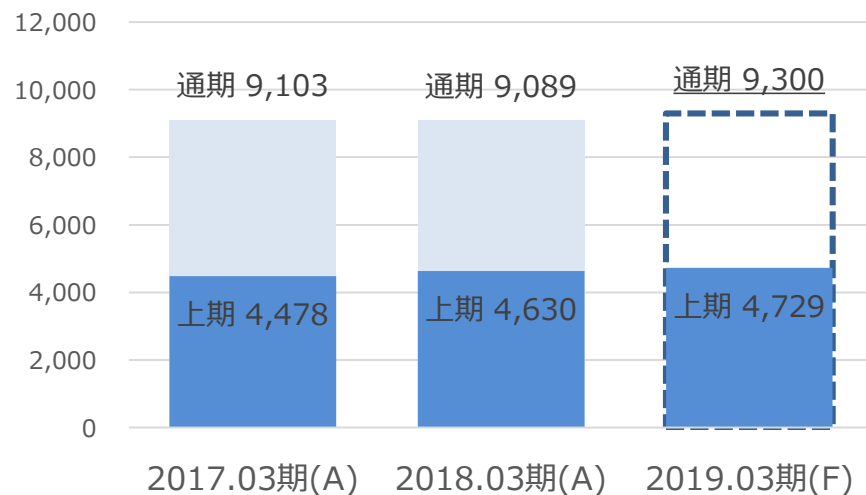
- 生活資材分野における網戸用品および園芸用品等の販売は、夏場の記録的な猛暑や台風といった異常気象の影響や、一部取引先統合による商圈逸失が影響し低調に推移
- 利益率の高い生活資材分野の売上の低調による利益減や、物流費などの上昇によるコスト増による減益を、新規製品の投入等によりカバーすることを図るも、十分にはカバーできず
- 今年度の需要期は終了。3月のホームセンターのシーズン初回導入に向け営業活動に注力
- 中国において防虫資材や遮光資材による農業試験を引続き実施。農作物生育のパフォーマンス向上や減農薬を実現する防虫資材や遮光資材の展開を図る



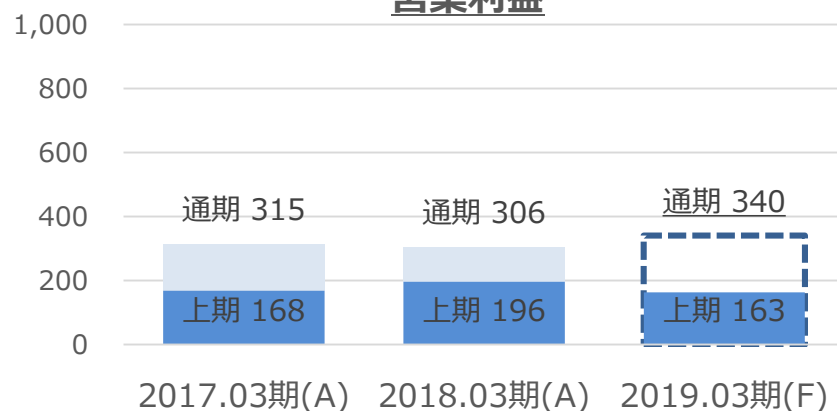
中国における農業試験

(単位：百万円)

売上高



営業利益



トピックス

- 産業資材分野において、建設および住宅関連資材での底堅い需要があったものの、原材料価格上昇分の価格転嫁の遅れや、一部の利益率の高い商材の不調が利益を圧迫
- 包材分野において、食品包装用シートが、コストアップ分の売価への転嫁を進めた上で売上伸長。コンビニエンスストア向けの食品容器成形品の不調をカバー
- 第3四半期以降は、産業資材分野においては、原材料価格上昇に伴う価格改定および利益率の高い商材の展開により、粗利率改善を進めると共に、包材分野では主要顧客との連携を深め、設備改善、製造効率向上に努め収益改善を図る



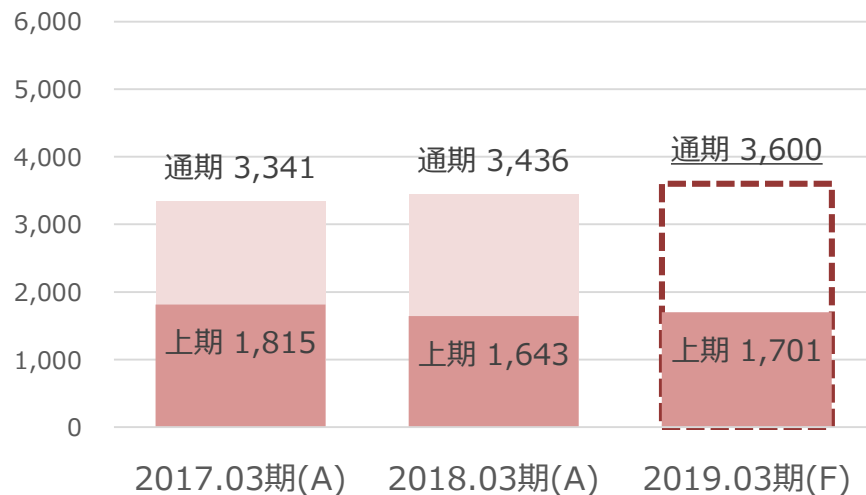
建設現場用ターポリンシート



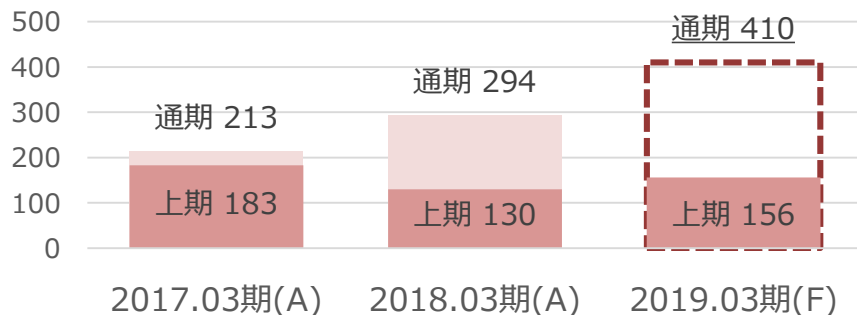
工場のシートシャッター門番

(単位：百万円)

売上高

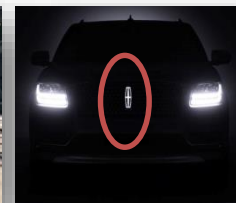


営業利益



トピックス

- 金属調加飾フィルム分野において、国内家電向けや、東南アジアにおけるエンブレムの在庫調整など、第1四半期に一時的影響を受けたものが復調
- PMMA/PC2層シート分野は、中国市場向けスマートフォン用途の販売が堅調。また、前年度続いた設備トラブルが解消し、収益が大幅に改善
- 第3四半期以降は、金属調加飾フィルム分野の中国での新規内装案件の採用や、北米自動車市場での本格的な立上がり、6月に新設した名古屋工場の収益改善などにより利益率改善を目指す



光透過加飾
(自動車)



吉利汽車
(SUV・MVP内装)

参考：<http://www.lincoln.com/luxury-suvs/navigator/2018/>

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。